

有害プランクトン情報

(令和3年度 - No. 11)

千葉県水産総合研究センター

東京湾漁業研究所・生産技術研究室

千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾でプランクトン調査を行っています。プランクトンの種類や密度によって、魚類のへい死や二枚貝の毒化を起こすことがあるため、毎月、有害プランクトンの出現状況をお知らせします。

- | | | | | |
|-------|----|--------|----------------|--------------|
| ○ 調査日 | 沖合 | 2月 第1回 | 内湾 (8地点) 2/1 | 内房 (2地点) 2/1 |
| | | 2月 第2回 | 内湾 (8地点) 2/7-8 | 内房 (7地点) 2/8 |

東京湾(内湾)**【有害プランクトンの出現状況】**

○シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属, カレニア属は確認されませんでした。

※ シャットネラ属は1細胞/mL, シュードシャットネラ属は100細胞/mL, ヘテロシグマ属は1,000細胞/mL, カレニア属は100細胞/mL以上で注意報を発出します。

○ 赤潮 (透明度 1.5 m 以下, pH 8.5 以上, 酸素飽和度 150 %以上) はみられませんでした。

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

1 麻痺性貝毒原因プランクトン

○ 確認されませんでした。

2 下痢性貝毒原因プランクトン

○ 沖合漁場でディノフィシス アキュミナータがみられました。密度は高くありませんでしたが、注視が必要です。

・ 2/1 アクアライン南部 (沖合) 密度は 0.05 細胞/mL

○ 沖合漁場でディノフィシス ロツンダータがみられました。密度は高くありませんでしたが、注視が必要です。

・ 2/1 船橋沖 (沖合) 密度は 0.05 細胞/mL

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

東京湾(内房)**【有害プランクトンの出現状況】**

○シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属, カレニア属は確認されませんでした。

※ シャットネラ属は1細胞/mL, シュードシャットネラ属は100細胞/mL, ヘテロシグマ属は1,000細胞/mL, カレニア属は100細胞/mL以上で注意報を発出します。

○ 赤潮 (透明度 1.5 m 以下, pH 8.5 以上, 酸素飽和度 150 %以上) はみられませんでした。

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

1 麻痺性貝毒原因プランクトン

○ 確認されませんでした。

2 下痢性貝毒原因プランクトン

○ 確認されませんでした。

貝毒の被害情報はいずれの日もありませんでした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

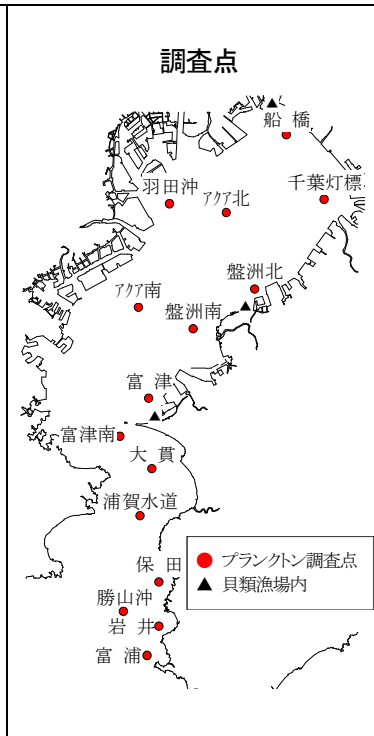
○ 各海域で見られたプランクトンの優占種

2/1 内湾・内房 珪藻スケレトネマ属, コシノディスクス属, など

2/7,8 内湾・内房 珪藻スケレトネマ属, コシノディスクス属, など



スケレトネマ属
(2/1 船橋沖)



連絡先 : 千葉県水産総合研究センター 東京湾漁業研究所

〒293-0042 富津市小久保 3091 TEL 0439-65-3071 E-mail futtsu-sokuho@pref.chiba.lg.jp